

2. 法令について

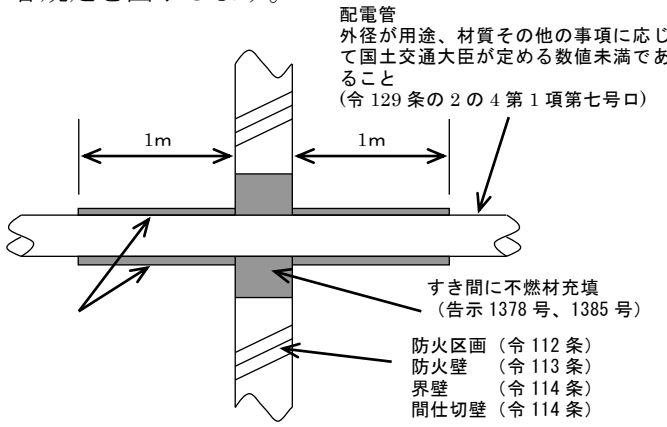
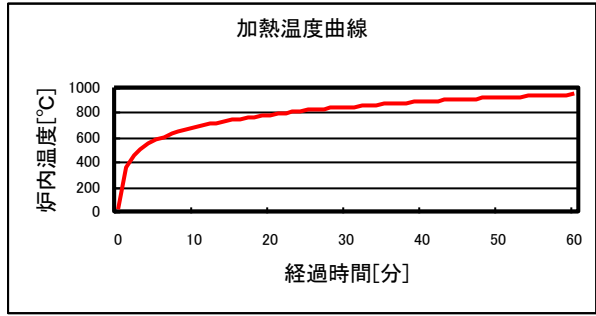
No.	Q	A
法令 1	関連法令にはどんな物があるか?	ケーブル配線の防火区画貫通部の防火措置工法に適用される法令は、建築基準法であり、関連する主な条項等は下記のようにまとめられます。
	建築基準法	第2章「建築物の敷地、構造及び建築設備」 第36条 (この章の規定を実施し、又は補足するため必要な技術的基準) <抜粋> 「給水、排水その他の配管設備の設置及び構造に関して、安全上、防火上必要な技術的基準は政令で定める。」
	建築基準法 施行令	第4章「耐火構造、準耐火構造、防火構造、防火区画等」 第112条第20項（防火区画） <抜粋> 「給水管、配水管その他の管が準耐火構造の防火区画を貫通する 場合においては、当該管と準耐火構造の防火区画との隙間をモル タルその他の不燃材料で埋めなければならない。」
	建設省告示	第5章の4「建築設備等」 第129条の2の4第1項第七号 (給水、排水その他の配管設備の設置及び構造) <抜粋> 「給水管、配電管その他の管が防火区画等を貫通する場合におい ては、これらの管の構造は、次のイ～ハに適合するものとする。」
	建設省通達	平成12年5月26日建設省告示第1378号 「耐火構造の床又は壁を貫通する給水管、配電管その他の管の部 分及びその周囲の部分の構造方法を定める件」 平成12年5月26日建設省告示第1385号 「準耐火構造の壁を貫通する給水管、配電管その他の管の 部分及びその周囲の部分の構造方法を定める件」 平成12年5月31日建設省告示第1422号 「準耐火構造の防火区画等を貫通する給水管、配電管その他の管 の外径を定める件」 平成12年6月1日建設省住指発第682号第4の4 「給水、排水その他の配管設備について」

No.	Q			A																																																																																																															
法令 2	耐火性能の技術的基準の詳細はどのように規定されているのか？			耐火性能は、非損傷性、遮熱性、遮炎性の各々に対し、次の表に掲げる時間はその性能を有することが規定されています。（建築基準法施行令第2条第1項第八号、第107条等）																																																																																																															
	<table><tr><th colspan="4" rowspan="2">建築物の部分と階数</th><th colspan="2">通 常 の 火 災</th><th>屋内において発生する通常の火災</th></tr><tr><th>非損傷性</th><th>遮熱性</th><th>遮炎性</th></tr><tr><td rowspan="16">壁</td><td rowspan="6">間仕切壁</td><td rowspan="5">耐力壁</td><td>最上階から4階迄の階数</td><td>1時間</td><td rowspan="5">1時間</td><td rowspan="5">――</td></tr><tr><td>最上階から5～9の階数</td><td>1.5時間</td></tr><tr><td>最上階から10～14の階数</td><td>2時間</td></tr><tr><td>最上階から15～19の階数</td><td>2時間</td></tr><tr><td>最上階から20階以上の階数</td><td>2時間</td></tr><tr><td>非耐力壁</td><td>――</td><td>――</td><td>1時間</td><td>――</td></tr><tr><td rowspan="7">外壁</td><td rowspan="5">耐力壁</td><td>最上階から4階迄の階数</td><td>1時間</td><td rowspan="5">1時間</td><td rowspan="5">1時間</td></tr><tr><td>最上階から5～9の階数</td><td>1.5時間</td></tr><tr><td>最上階から10～14の階数</td><td>2時間</td></tr><tr><td>最上階から15～19の階数</td><td>2時間</td></tr><tr><td>最上階から20階以上の階数</td><td>2時間</td></tr><tr><td rowspan="2">非耐力壁</td><td>延焼のおそれのある部分</td><td>――</td><td>1時間</td><td>1時間</td></tr><tr><td>延焼のおそれのある部分以外</td><td>――</td><td>30分</td><td>30分</td></tr><tr><td colspan="3" rowspan="5">柱</td><td>最上階から4階迄の階数</td><td>1時間</td><td rowspan="5">――</td><td rowspan="5">――</td></tr><tr><td>最上階から5～9の階数</td><td>1.5時間</td></tr><tr><td>最上階から10～14の階数</td><td>2時間</td></tr><tr><td>最上階から15～19の階数</td><td>2.5時間</td></tr><tr><td>最上階から20階以上の階数</td><td>3時間</td></tr><tr><td colspan="3" rowspan="5">床</td><td>最上階から4階迄の階数</td><td>1時間</td><td rowspan="5">1時間</td><td rowspan="5">――</td></tr><tr><td>最上階から5～9の階数</td><td>1.5時間</td></tr><tr><td>最上階から10～14の階数</td><td>2時間</td></tr><tr><td>最上階から15～19の階数</td><td>2時間</td></tr><tr><td>最上階から20階以上の階数</td><td>2時間</td></tr><tr><td colspan="3" rowspan="5">はり</td><td>最上階から4階迄の階数</td><td>1時間</td><td rowspan="5">――</td><td rowspan="5">――</td></tr><tr><td>最上階から5～9の階数</td><td>1.5時間</td></tr><tr><td>最上階から10～14の階数</td><td>2時間</td></tr><tr><td>最上階から15～19の階数</td><td>2.5時間</td></tr><tr><td>最上階から20階以上の階数</td><td>3時間</td></tr><tr><td colspan="4">屋 根</td><td>30分</td><td>――</td><td>30分</td></tr><tr><td colspan="4">階 段</td><td>30分</td><td>――</td><td>――</td></tr></table>				建築物の部分と階数				通 常 の 火 災		屋内において発生する通常の火災	非損傷性	遮熱性	遮炎性	壁	間仕切壁	耐力壁	最上階から4階迄の階数	1時間	1時間	――	最上階から5～9の階数	1.5時間	最上階から10～14の階数	2時間	最上階から15～19の階数	2時間	最上階から20階以上の階数	2時間	非耐力壁	――	――	1時間	――	外壁	耐力壁	最上階から4階迄の階数	1時間	1時間	1時間	最上階から5～9の階数	1.5時間	最上階から10～14の階数	2時間	最上階から15～19の階数	2時間	最上階から20階以上の階数	2時間	非耐力壁	延焼のおそれのある部分	――	1時間	1時間	延焼のおそれのある部分以外	――	30分	30分	柱			最上階から4階迄の階数	1時間	――	――	最上階から5～9の階数	1.5時間	最上階から10～14の階数	2時間	最上階から15～19の階数	2.5時間	最上階から20階以上の階数	3時間	床			最上階から4階迄の階数	1時間	1時間	――	最上階から5～9の階数	1.5時間	最上階から10～14の階数	2時間	最上階から15～19の階数	2時間	最上階から20階以上の階数	2時間	はり			最上階から4階迄の階数	1時間	――	――	最上階から5～9の階数	1.5時間	最上階から10～14の階数	2時間	最上階から15～19の階数	2.5時間	最上階から20階以上の階数	3時間	屋 根				30分	――	30分	階 段				30分	――
建築物の部分と階数				通 常 の 火 災					屋内において発生する通常の火災																																																																																																										
				非損傷性	遮熱性	遮炎性																																																																																																													
壁	間仕切壁	耐力壁	最上階から4階迄の階数	1時間	1時間	――																																																																																																													
			最上階から5～9の階数	1.5時間																																																																																																															
			最上階から10～14の階数	2時間																																																																																																															
			最上階から15～19の階数	2時間																																																																																																															
			最上階から20階以上の階数	2時間																																																																																																															
		非耐力壁	――	――	1時間	――																																																																																																													
	外壁	耐力壁	最上階から4階迄の階数	1時間	1時間	1時間																																																																																																													
			最上階から5～9の階数	1.5時間																																																																																																															
			最上階から10～14の階数	2時間																																																																																																															
			最上階から15～19の階数	2時間																																																																																																															
			最上階から20階以上の階数	2時間																																																																																																															
		非耐力壁	延焼のおそれのある部分	――	1時間	1時間																																																																																																													
			延焼のおそれのある部分以外	――	30分	30分																																																																																																													
	柱			最上階から4階迄の階数	1時間	――	――																																																																																																												
				最上階から5～9の階数	1.5時間																																																																																																														
				最上階から10～14の階数	2時間																																																																																																														
最上階から15～19の階数				2.5時間																																																																																																															
最上階から20階以上の階数				3時間																																																																																																															
床			最上階から4階迄の階数	1時間	1時間	――																																																																																																													
			最上階から5～9の階数	1.5時間																																																																																																															
			最上階から10～14の階数	2時間																																																																																																															
			最上階から15～19の階数	2時間																																																																																																															
			最上階から20階以上の階数	2時間																																																																																																															
はり			最上階から4階迄の階数	1時間	――	――																																																																																																													
			最上階から5～9の階数	1.5時間																																																																																																															
			最上階から10～14の階数	2時間																																																																																																															
			最上階から15～19の階数	2.5時間																																																																																																															
			最上階から20階以上の階数	3時間																																																																																																															
屋 根				30分	――	30分																																																																																																													
階 段				30分	――	――																																																																																																													
<div>1. 第2条第1項第八号の規定により階数に算入されない屋上部分がある建築物の当該屋上部分は、この表の適用については、建築物の最上階に含まれるものとする。</div> <div>2. この表における階数の算定については、第2条第1項第八号の規定にかかわらず、地階の部分の階数は、全て算入するものとする。</div>																																																																																																																			

No.	Q	A																																																																							
法令 3	準耐火性能の技術的基準の詳細はどのように規定されているのか？	準耐火性能は、非損傷性、遮熱性、遮炎性の各々に対し、次の表に掲げる時間はその性能を有することが規定されています。（建築基準法施行令第 107 条の 2）																																																																							
	<table><tr><th colspan="3" rowspan="2">建築物の部分</th><th colspan="2">通 常 の 火 災</th><th>屋内において発生する通常の火災</th></tr><tr><th>非損傷性</th><th>遮熱性</th><th>遮炎性</th></tr><tr><td rowspan="3">壁</td><td>間仕切壁</td><td colspan="2">耐 力 壁</td><td>45 分</td><td>45 分</td><td>――</td></tr><tr><td rowspan="2">外 壁</td><td colspan="2">耐 力 壁</td><td>45 分</td><td>45 分</td><td>45 分</td></tr><tr><td colspan="2">非 耐 力 壁 (延焼のおそれのある部分を除く)</td><td>――</td><td>30 分</td><td>30 分</td></tr><tr><td colspan="3">柱</td><td>45 分</td><td>――</td><td>――</td></tr><tr><td colspan="3">床</td><td>45 分</td><td>45 分</td><td>――</td></tr><tr><td colspan="3">は り</td><td>45 分</td><td>――</td><td>――</td></tr><tr><td rowspan="4">屋根</td><td colspan="2">軒 裏 以 外</td><td>30 分</td><td>――</td><td rowspan="4">30 分</td></tr><tr><td rowspan="3">軒裏</td><td>外壁によって小屋裏又は天井裏と防火上有効に遮られているもの</td><td>――</td><td>――</td></tr><tr><td rowspan="2">上記以外</td><td>延焼のおそれのある部分</td><td>――</td><td>45 分</td></tr><tr><td>上記以外</td><td>――</td><td>30 分</td></tr><tr><td colspan="3">階 段</td><td>30 分</td><td>――</td><td>――</td></tr></table>					建築物の部分			通 常 の 火 災		屋内において発生する通常の火災	非損傷性	遮熱性	遮炎性	壁	間仕切壁	耐 力 壁		45 分	45 分	――	外 壁	耐 力 壁		45 分	45 分	45 分	非 耐 力 壁 (延焼のおそれのある部分を除く)		――	30 分	30 分	柱			45 分	――	――	床			45 分	45 分	――	は り			45 分	――	――	屋根	軒 裏 以 外		30 分	――	30 分	軒裏	外壁によって小屋裏又は天井裏と防火上有効に遮られているもの	――	――	上記以外	延焼のおそれのある部分	――	45 分	上記以外	――	30 分	階 段			30 分	――	――
	建築物の部分			通 常 の 火 災					屋内において発生する通常の火災																																																																
				非損傷性	遮熱性	遮炎性																																																																			
	壁	間仕切壁	耐 力 壁		45 分	45 分	――																																																																		
		外 壁	耐 力 壁		45 分	45 分	45 分																																																																		
			非 耐 力 壁 (延焼のおそれのある部分を除く)		――	30 分	30 分																																																																		
	柱			45 分	――	――																																																																			
	床			45 分	45 分	――																																																																			
	は り			45 分	――	――																																																																			
	屋根	軒 裏 以 外		30 分	――	30 分																																																																			
		軒裏	外壁によって小屋裏又は天井裏と防火上有効に遮られているもの	――	――																																																																				
上記以外			延焼のおそれのある部分	――	45 分																																																																				
			上記以外	――	30 分																																																																				
階 段			30 分	――	――																																																																				
法令 4	防火性能の技術的基準の詳細はどのように規定されているのか？	防火性能は、非損傷性、遮熱性の各々に対し、次の表に掲げる時間はその性能を有することが規定されています。尚、防火構造は、屋内にて発生する火災を想定していませんので、遮炎性を要求しません。（建築基準法施行令第 108 条）																																																																							
	<table><tr><th colspan="3" rowspan="2">建築物の部分</th><th colspan="2">通常の火災</th></tr><tr><th>非損傷性</th><th>遮熱性</th></tr><tr><td rowspan="2">壁</td><td rowspan="2">外壁</td><td>耐力壁</td><td>30 分</td><td rowspan="2">30 分</td></tr><tr><td>非耐力壁</td><td>――</td></tr><tr><td>屋根</td><td colspan="2">軒裏</td><td>――</td><td>30 分</td></tr></table>					建築物の部分			通常の火災		非損傷性	遮熱性	壁	外壁	耐力壁	30 分	30 分	非耐力壁	――	屋根	軒裏		――	30 分																																																	
	建築物の部分			通常の火災																																																																					
				非損傷性	遮熱性																																																																				
	壁	外壁	耐力壁	30 分	30 分																																																																				
			非耐力壁	――																																																																					
	屋根	軒裏		――	30 分																																																																				

No.	Q	A				
法令 5	防火区画とはどのように規定されているか？	建築物の構造、用途、規模に応じて防火区画に関する規定があります。				
	① 建築物の構造別による防火区画 (建築基準法第 26 条、建築基準法施行令第 112 条第 1 項、第 4 項～第 10 項)					
		対象建築物と根拠条文	区画条件	区画の構造		
				床・壁	防火設備	内装 (壁・天井)
	面積区画	大規模木造建築物（耐火建築物または準耐火建築物以外） 法第 26 条、令第 113 条	1,000㎡以内毎	防火壁・床 (倒壊しない耐火構造の壁・床)	特定防火設備 (幅 2.5m 以下、高さ 2.5m 以下)	—
		主要構造を耐火構造とした建築物	1,500㎡以内毎	耐火構造	特定防火設備	—
		準耐火建築物又は、延焼防止建築物若しくは、準延焼防止建築物 法第 36 条、令第 112 条第 1 項		準耐火構造 (1 時間)		
		火災時倒壊防止構造の建築物 周辺危害防止構造の建築物 (通常火災予測時間が 1 時間以内)	500 m ² 以内毎	準耐火構造 (1 時間)	特定防火設備	—
		避難時倒壊防止建築物（特定避難時間が 1 時間以内）。				
		準耐火建築物(法第 27 条による建築物で主要構造部不燃材、1 時間準耐火基準に適合するものを除く)				
		令第 136 条の 2 第二号に掲げる基準に適合する建築(法 61 条による建築物で準防火地域内にあるものは主要構造部不燃材の準耐火建築物、1 時間準耐火基準に適合するものを除く)				
		準耐火建築物等(法第 67 条による建築物で主要構造部不燃材の準耐火建築物、1 時間準耐火基準に適合するものを除く) 令 112 条第 4 項				
火災倒壊防止構造の建築物 周辺危害防止構造の建築物 (通常火災予測時間が 1 時間以上)		1000 m ² 以内毎	準耐火構造 (1 時間)	特定防火設備	—	
避難時倒壊防止建築物 (特定避難時間が 1 時間以上)。						
準耐火建築物、(主要構造部不燃材、1 時間準耐火基準に適合)						
第 136 条の 2 第二号に掲げる基準に適合する建築(法 61 条による建築物で準防火地域内にあり、主要構造部不燃材、一時間準耐火基準に適合)						
準耐火建築物等(法第 67 条による建築物で主要構造部不燃材、1 時間準耐火基準に適合) 令 112 条第 5 項						
高層階・地下街区画	高層建築物の 11 階以上の階、地下街（各構えの部分） 令第 112 条第 7 項～第 9 項、令第 128 条の 3 第 2 項、第 3 項、第 5 項	100 m ² 以内毎	耐火構造	特定防火設備	—	
		200 m ² 以内毎	耐火構造	特定防火設備	仕上げ、下地共に準不燃材料	
		500 m ² 以内毎	耐火構造	特定防火設備	仕上げ、下地共に不燃材料	

- ② 建築物の用途別による防火区画（建築基準法施行令第 112 条第 18 項）
 建築物の一部が、特殊建築物（劇場、マーケット、病院等）である場合、この部分とその他の部分とを、1 時間準耐火基準に適合する準耐火構造とした床若しくは壁、又は特定防火設備で区画しなければならない。ただし、国土交通大臣が定める基準に従い、警報設備を設けることその他これに準ずる措置が講じられている場合においては、その部分とその他の部分とを特定防火設備等で区画しなくてよいものとする。
- ③ 建築物の堅穴区画部分の防火区画（建築基準法施行令第 112 条第 11 項）
 準耐火構造、又は延焼防止建築物若しくは準延焼防止建築物である 3 階以上の階に居室有するものの堅穴部分（吹き抜き、階段、昇降路、ダクトスペース等）とその他の部分とは、準耐火構造の床若しくは壁、又は遮炎性能を持った防火設備で区画しなければならない。
 ※200 m²未満の特定小規模特殊建築物については令 112 条第 12 項、第 13 項に従う
- ④ 面積区画とみなす規定
 主要構造部を耐火構造とした建築物の 2 以上の部分が当該建築物の吹抜きとなっている部分その他の一定の規模以上の空間が確保されている部分（以下 1 において「空間部分」という。）に接する場合において、当該 2 以上の部分の構造が通常の火災時において相互に火熱による防火上有害な影響を及ぼさないものとして国土交通大臣が定めた構造方法を用いるもの又は国土交通大臣の認定を受けたものである場合においては、当該 2 以上の部分と当該空間部分とが特定防火設備で区画されているものとみなして、当該建築物を 1500m²以内ごとに区画しなければならないとする第 112 条第 1 項の規定を適用するものとする。
- ⑤ 別の建築物としてみなす部分に対する規定（建築基準法施行令第 112 条第 22、23 項）
 建築物が火熱遮断壁等で区画されている場合における当該火熱遮断壁等により分離された部分は、第 1 項、又は第 11 項から第 13 項までの規定の適用についてはそれぞれ別の建築物とみなす。
- 建築基準法施行令 109 条の 2 第 3 項に規定する建築物に係る第 1 項は第 11 項の規定の適用については当該建築物の同条第 3 項に規定する特定部分及び他の部分をそれぞれ別の建築物とみなす。

No.	Q	A
法令 6	ケーブル配線の防火区画貫通部の防火措置工法はどのように規定されているか？	<p>防火区画を貫通する配水管、配電管などの防火措置としての建築基準法施行令第112条第20項、第113条第2項、第114条第5項、第129条の2の4第1項第七号イもしくはロの規定がケーブル区画貫通部にも適用されます。</p> <p>以下に各規定を図示します。</p>  <p>上記以外の材料、工法による場合は指定性能評価機関にて区画貫通部性能試験を行い、大臣認定を取得しなければなりません。(建築基準法施行令第129条2の4の第1項第七号ハ) 例えば、ケーブルの多条布設等で上記の施工が困難な場合、規定以外の材料を適用した新規な工法による場合等です。</p>
法令 7	ケーブル防火区画貫通部の耐火性能はどのように規定されているか？	<p>国土交通大臣に指定された性能評価機関が制定した試験方法によります。加熱条件としては、ISO 834 Fire-resistance tests –Elements of building construction–に規定された次式を採用しています。</p> $T = 345 \log_{10}(8t + 1) + 20$ <p>Tは平均炉内温度(℃)、tは試験経過時間(分)</p>  <p>また、性能評価においては、下記の点が耐火性能を有するための条件になっています。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 非加熱側へ10秒を超えて継続する火炎の噴出がないこと。 ② 非加熱面で10秒を超えて継続する発炎がないこと。 ③ 火炎が通る亀裂等の損傷及び隙間を生じないこと。

No.	Q	A																		
法令 8	建築物の耐火性能とケーブル防火区画貫通部の耐火性能はどのような関係になっているか？	<p>ケーブルが防火区画を貫通する箇所の防火措置工法に対して、性能基準に適合する事が認められたもののみ、大臣認定が与えられます。</p> <p>性能基準は、通常の火災による火熱が加えられた時に、加熱開始後一定時間の間、加熱側の反対側に火炎の噴出と発炎が無い事、火炎を出す原因となるき裂その他の損傷を生じないという事とされています。</p> <p>従って、建築物の耐火性能との関係は、非損傷性、遮熱性、遮炎性の時間による違いがあります。</p> <p>< 1 時間 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 面積にて規定された面積区画を貫通する場合。(面積区画) ○ 11 階以上の建築物で面積にて規定された面積区画を貫通する場合。(高層面積区画) ○ 建築物の一部が特殊建築物であり、その他の部分と準耐火構造で区画している部分を貫通する場合。(異種用途区画) ○ 防火壁を貫通する場合。 <p>< 45 分 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 共同住宅の各戸の界壁 ○ 学校、病院、ホテル、下宿、マーケットにおける間仕切壁 ○ 建築面積 300 m² 超えの木造小屋組の隔壁 ○ 耐火建築物以外を連絡する渡り廊下で、木造の小屋組の隔壁 <p>< 20 分 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 上記以外の防火区画 																		
法令 9	ケーブル配線の区画貫通部防火措置について海外規格にはどのようなものがあるか？	<p>ケーブル配線の区画貫通部耐火性能試験規格として下記のようなものがあります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>国名</th><th>規格No.</th><th>規格名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国際規格</td><td>ISO 10295-1</td><td>Fire tests for building elements and components- Fire testing of service installations- Part1 Penetration seals</td></tr> <tr> <td>アメリカ</td><td>ASTM E 814</td><td>Standard Test Method for Fire Tests of Penetration Fire stop Systems</td></tr> <tr> <td>アメリカ</td><td>UL1479</td><td>Fire Tests of Penetration Firestops</td></tr> <tr> <td>英国</td><td>BS EN 1366-3</td><td>Fire resistance tests for service installation Part3 Penetration seals</td></tr> <tr> <td>ドイツ</td><td>DIN 4102-9</td><td>Fire behaviour of building materials and elements; seals for cable penetrations; concepts, requirements and testing</td></tr> </tbody> </table>	国名	規格No.	規格名	国際規格	ISO 10295-1	Fire tests for building elements and components- Fire testing of service installations- Part1 Penetration seals	アメリカ	ASTM E 814	Standard Test Method for Fire Tests of Penetration Fire stop Systems	アメリカ	UL1479	Fire Tests of Penetration Firestops	英国	BS EN 1366-3	Fire resistance tests for service installation Part3 Penetration seals	ドイツ	DIN 4102-9	Fire behaviour of building materials and elements; seals for cable penetrations; concepts, requirements and testing
国名	規格No.	規格名																		
国際規格	ISO 10295-1	Fire tests for building elements and components- Fire testing of service installations- Part1 Penetration seals																		
アメリカ	ASTM E 814	Standard Test Method for Fire Tests of Penetration Fire stop Systems																		
アメリカ	UL1479	Fire Tests of Penetration Firestops																		
英国	BS EN 1366-3	Fire resistance tests for service installation Part3 Penetration seals																		
ドイツ	DIN 4102-9	Fire behaviour of building materials and elements; seals for cable penetrations; concepts, requirements and testing																		

No.	Q	A
法令 10	消防法における令8区画に関する貫通部については、どのように考えたらいいか？	令8区画には、原則的に配管が貫通してはいけません。但し例外として、必要不可欠と認められたものは、その開口部が防火区画の耐火構造と同等と認められる場合にのみ認められます。それでも、令8区画に関しては、電気配線・ガス管配管は許されず、給排水管のみが許されています。
法令 11	消防法における特定共同住宅等における区画貫通部については、どのように考えたらいいか？	特定共同住宅等の区画貫通部については、平成17年消防庁告示2号により開口面積、配管径などが制限されております。さらにその耐火性能については平成17年消防庁告示4号により規定されております。従って、防火措置は大臣認定工法でなく、告示2号に規定された措置もしくは告示4号に規定された耐火性能をもつ工法でなくてはなりません。 詳しくは当協議会発行の技術資料(第22号)をご参照ください。(当協議会ホームページ(工法Q&A法令11)より閲覧できます。 https://www.cfaj.gr.jp)
法令 12	区画貫通部防火措置工法の認定並びに工法施工後の検査に役所や機関はどのように関係しているか？	区画貫通部防火措置工法の性能評価、認定、施工、検査に関する役所、機関、業界を次ページの図1に示します。
法令 13	火災時倒壊防止構造又は通常火災終了時間が長時間である長時間準耐火構造の床又は壁を貫通する場合のケーブル防火措置工法はどのように規定されているか？	<p>火災時倒壊防止構造の壁・又は床を貫通する給水管、配電管などの防火措置として、令和元年国土交通省告示第193号第1第1項一号ロ(1)、(2)が適用されます。</p> <p>(1) 給水管等と防火区画の隙間がアルカリアースシリケートで埋められている場合（固有通常火災終了時間が180分以下で、床、壁の厚さ163mm以上の場合）</p>

		<p>(2) 給水管等と防火区画の隙間がモルタルその他不燃材で埋められている場合</p> <p>(3) 給水管等の構造が次のいずれかに適合するものであること。</p> <ul style="list-style-type: none"> (i) 鉄管又は鋼管であること。 (ii) 給水管等が防火区画を貫通する部分及び当該貫通する部分から両側に 1m 以内の距離にある部分が不燃材料で造られていること。 (iii) 給水管等の外径が、給水管等の用途、覆いの有無、材質、肉厚及び固有通常火災終了時間に応じ、それぞれ次の表に定める数値未満であり、かつ、その内部に電線等を挿入していない予備配管にあつては、当該予備配管の先端を密閉したものであること。
法令 14	ケーブルが令 109 条の 8 に規定する技術的基準に適合する壁等を貫通する場合の防火措置工法はどのように規定されているか？	<p>令和 6 年告示 227 号第 8 第 1 項、第 2 項が適用されます。火災継続予測時間の区分に応じた基準に適合することとされています。</p> <p>令第 129 条の 2 の 4 第 1 項第七号ハの国土交通大臣の認定を受けた構造は、当該認定において加熱開始後亀裂その他の損傷を生じないことが確かめられた時間が、火災継続予測時間（当該給水管等が区画室等のみを構成する壁等を貫通する場合において、火災継続予測時間が 60 分を超え、90 分以下である場合にあつては 60 分間、火災継続予測時間が 60 分以下である場合にあつては 45 分間）以上のものとするものとされています。</p>
法令 15	ケーブルが特定区画を貫通する場合の防火措置工法はどのように規定されているか？	<p>令和 6 年告示 231 号第 4 第 1 項、第 2 項が適用されます。特定区画通常火災継続予測時間の区分に応じた基準に適合することとされています。</p> <p>令第 129 条 2 の 4 第 1 項第七号ハの国土交通大臣の認定を受けた構造は、当該認定において加熱開始後亀裂その他の損傷を生じないことが確かめられた時間が特定区画通常火災継続予測時間以上のものとするものとされています。</p>
法令 16	ケーブルが令和 6 年告示第 284 号第 1 第二号に該当する建築物の壁等を貫通する場合の防火措置工法はどのように規定されているのか？	<p>令和 6 年告示 284 号第 1 第二号チ、リが適用されます。129 条 2 の 4 第 1 項第七号ハの国土交通大臣認定を受けた構造は、当該認定において加熱開始後亀裂その他の損傷を生じないことが確かめられた時間が 60 分間（当該壁等が令和 6 年告示 284 号第 1 第二号ニ（2）に掲げる基準に適合する場合においては 45 分間）以上のものとするものとされています。</p>

図1 区画貫通部防火措置工法の性能評価、認定、施工、検査に係る機関、役所、業界の関係図

